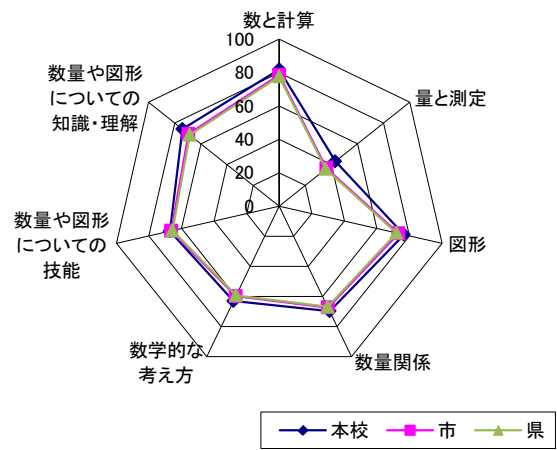


宇都宮市立海道小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	81.8	78.6	77.7
	量と測定	43.0	36.3	35.7
	図形	76.6	73.3	72.1
	数量関係	69.9	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	63.1	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	67.1	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	74.0	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県と比べて4.1ポイント高い。 ○3位数×2位数＝5位数、帯分数を数直線に表すこと、倍で表された数量関係の場面を表したテープ図を選ぶことができている。朝の学習や家庭学習でプリントを使って復習してきた成果であると考えられる。 ●小数第1位－小数第2位の計算と四捨五入して表された2けたの概数になる数を選ぶことに課題が見られる。	・今後も朝の学習や家庭学習で復習させ、理解の定着が図れるようにする。 ・位の異なる小数の引き算は、小数点をそろえて計算することをデジタル教科書や実物投影機を使って指導し、理解できるようにする。2けたの概数になる数を選ぶことに対しては、「上から○けたの概数」「○の位までの概数」等の表現の違いについて理解が図れるよう丁寧に指導する。
量と測定	平均正答率は県と比べて7.3ポイント高い。 ○1㎡と1cm㎡の関係、式に合った複合図形の面積を求める方法を説明することができている。全校体制で話し合い学習を取り入れた授業を推進してきた成果であると考えられる。 ●図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明することに課題が見られる。	・今後も授業の中に話し合いながら課題を解決する場を設け、解決策を説明することで理解が図れるようにする。 ・180°より大きい角度の求め方を説明することについては、実際に分度器を使って180°より大きい角をかかせ、その方法を説明させることで理解できるようにする。
図形	平均正答率は県と比べて4.5ポイント高い。 ○与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形を完成することができている。実物投影機を活用して図形のかき方を丁寧に指導してきた成果であると考えられる。	・今後もデジタル教科書や実物投影機を活用して図形の性質やかき方への理解が図れるようにする。
数量関係	平均正答率は県とほぼ同じである。 ○基石の並べ方とその個数の関係を式で表すこと及び式に合った複合図形の求める方法を説明することができている。全校体制で話し合い学習を取り入れた授業を推進してきた成果であると考えられる。 ●折れ線グラフから下がり方の一番大きい部分を答えることに課題が見られる。	・今後も授業の中に小グループやペアによる話し合い学習を取り入れて解き方やかき方を説明することで理解が図れるようにする。 ・折れ線グラフを読むことについては、学習プリントで復習させたり、デジタル教科書で一番変化のある部分やその書き表わし方を確認したりすることで理解できるようにする。